

2019年3月期 決算説明会 質疑応答要旨

日時：2019年5月30日（木） 10時00分～ 場所：ベルサール八重洲（東京都中央区）

出席者：代表取締役社長 大上誠一郎、常務取締役 大成俊文、取締役 栢森啓、

制御システム事業部長 平光和幸

Q1

今期の業績予想の前提で、研究開発費が12億円と前期並の計画ですが、今後の研究開発費の計画、見通しについてご説明をお願いいたします。一方で今期は減価償却費がかなり多く見込まれており、その分利益を圧迫すると思いますが、これを吸収していけるだけの収益性を今後改善していくための道筋についてお聞かせください。

A1

研究開発費については AI ホールコンピュータ「X」のリリースにより、一旦落ち着く予定です。ただ、リリースにより償却が始まりますので、減価償却費については今後も数年続いていきます。今期については、AI ホールコンピュータ「X」の開発費に加え、社内インフラである基幹システムの改修費用も計上されており、利益を圧迫する原因となっております。

なお、AI ホールコンピュータ「X」はハードの交換を必要とするシステムではなく、システムアップという形で既存のハードをそのまま使うことができるものとなります。このような形にしたのは、まず市場のインフラを押さえることで、差別化ができている当社の CR ユニットや情報公開機器などの周辺機器の購入につなげ、今後の業績向上に結びつけたいと考えたためです。

Q2

AI ホールコンピュータ「X」について、今後いろいろな機能を追加してお客さんをサービスで囲い込んでいく形だと思いますが、何か新たな収益源のようなものを予定されているのでしょうか。

A2

AI ホールコンピュータ「X」は新製品発表展示会で非常に高い評価をいただいております。6月より販売開始となります。内容に関しては決算説明会資料の30ページに記載のとおりですが、従前のコンピュータはデータを集計して、表示して、あとの分析はホールのご担当者様のスキル、個人に依存していたところが大きいのですが、ホール様も人材難に直面しており人的にケアできていないのが現実だと考えております。

ここをケアできるのが AI ホールコンピュータ「X」だと思っております。オートコンサルなど教えてくれるコンピュータとありますが、ここに AI 技術を駆使してパチンコホールの省力化・省人化、そして業績アップにつなげていくところに、弊社の有償のサービスである MG サービスをつなげていくことを目指しております。今回はスタートラインということでまだ数種類ですが、今後の2次開発、3次開発により、この種類を増やしていき、収益を向上させていきたいと考えております。

Q3

AI ホールコンピュータ「X」ですが、これはシステムの入替えて毎月の定期的な収入アップという形で御社にはプラスメリットでしょうか。

A3

導入時のイニシャルコストに関しては、導入しやすい価格を設定しております。それは費用がなかなか掛けられない状況と、入替えの工数を減らすことでホール様の負担を軽減できるために考えた取り組みです。今後は、AI ホールコンピュータ「X」の付加価値として有償化できるサービスをどんどん増やしていければと考えております。

Q4

いわゆる管理遊技機の導入がもう少しで始まるという話もあるようですが、導入時期や普及ペースの見方について教えてください。

A4

管理遊技機については、ただ今いろいろな話が噂レベルで情報が入ってきております。あるメーカー様が申請して市場には1年内には発売されるという話も聞いておりますが、その後の運用についてはまだまとまっていないという話を聞いておりますので、今も情報を全力で集めているところでございます。

Q5

そのシステムが導入された場合、御社も何らかの形のプラスメリットはあるのでしょうか。

A5

管理遊技機やメダルレス遊技機というものが導入されますと、弊社のCRユニット「VEGASIA」にも何らかの形で改修が発生しますので、プラス傾向と想定しています。ただ導入については、一気に広がるということは想定しておらず、部分導入という形で順次進んでいくと考えております。

Q6

AI ホールコンピュータ「X」のイニシャルの金額と、付加価値として提供するサービスのリリース時期及び、そのサービスによる利益計画を教えてください。

A6

イニシャルに関しては既存のホールコンピュータ「CⅡ」を使われているホール様に対してということになりますが、ここもいろいろな幅がありまして、少し古いタイプのハードを使われていたり、最近入れ替えたハードであったりいろいろなパターンがありますが、数百万レベルの金額を想定しております。有償とするサービスですが、ここはリリース当初から数点用意しております。今期の業績に関しては決算説明会資料の31ページの一番下に「MG サービス売上」にすべて集約されておりますが、今期はこれから導入開始のため大きく数字に入っておりません。来期以降はここに上乗せできると考えております。

Q7

制御システム事業の利益について、上期 1 億円に対し下期の 6 億円と大きく増加する計画ですが、パチンコの機種数が多いため利益率及び利益が良くなるということでしょうか。

A7

今期計画の表示ユニットの販売機種は全部で 12 機種ですが、上期 4 機種、下期 8 機種の販売を計画しており、下期には 91,500 台の販売を計画しているため、このような利益計画としております。

以上